資料３　原田構成員提出資料

孤独・孤立対策の取組状況についてのコメント

日本福祉大学　原田正樹

① 地域展開をどうしていくか

「孤独・孤立」に総合的に対応していくために、関係者によるプラットフォームの構築や推進は有効であると思います。今後の「地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの推進」に期待するものです。都道府県、市区町村単位の地域特性を生かしてより有効なプラットフォームが必要です。とはいえプラットフォームは構築の過程を重視しないと形骸化していきます。誰が、どこで、どのように構築していくのか。その検討と戦略が重要だと思います。

② 施策間の連携と総合的な推進にむけて

重点計画にもとづいて施策が進むことは大変よいことですが、各省庁等がそれぞれ進めることで、結果として市町村行政の負担が増えてしまうことを懸念します。実際に支援を展開する市町村ベースで、施策の統合化が必要ではないでしょうか。現在、厚労省が進めている包括的支援体制に集約していくことが現実的ではないかと考えます。

③ 相談から支援、地域づくりの一体的な展開

以前から指摘されてきたことですが、多様な形で相談を受けることは重要ですが、受けた相談をどうつないでいくのか。（相談を受けるだけで解決することもありますが）相談から支援につなげる、あるいは予防的な地域づくりも含めて、一体的な対策の展開が必要かと思います。その際の個人情報の取り扱いも含めて、緩やかなシステム化が必要かと思います。

④ 「望まない孤独」の定義や把握方法

孤独・孤立の概念整理した結果として、「望まない孤独」が示されました。ともすれば主観的な孤独に対して、施策として実施する根拠として説得力がありますが、現場では、それをどう把握するのかという疑問もあがっています。例えば、今回の調査結果のなかで、「望まない孤独」はどう分析されているのかという質問を受けることもあります。難しい点ですが、これからの論点になるのではないでしょうか。

⑤ 「共に生きる力を育む教育」の進展にむけて

重点計画のなかで指摘された「共に生きる力を育む教育」について、文科省など関係省庁の受け止め方がわかりません。教育振興基本計画などに位置付けるなど、政府としてこうした教育を重視していくことが必要ではないでしょうか。

以上